

グループ名 ・代表者名	遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン 天笠 啓祐	助成金額	40万円
連絡先など	office@gmo-iranai.org		
助成のテーマ	隠れ遺伝子組み換え（GM）ナタネおよび交雑種の拡大調査		

**【調査研究の概要】**

- ・輸入した遺伝子組み換え（GM）作物の種子が輸送途中などでこぼれ落ちて、道路わきなどにGM植物や交雑種の自生が広がっている状況を食い止めようと、2005年から市民による全国調査を実施している。
- ・2013年度の隠れGMナタネ調査の結果は以下の通り。
  - ①調査箇所：茨城県鹿島港、千葉港、四日市港及び国道23号線沿い、名古屋港、大阪府堺市など神戸港周辺、岡山県水島港周辺、熊本県水俣市、福岡市箱崎埠頭周辺の9地域。
  - ②確認された隠れGMナタネ：四日市港及び国道23号線沿いで採取した15検体中7検体、福岡市箱崎埠頭周辺で採取した22検体中3検体の計10検体が二次検査でも「隠れGMナタネ」と判定された。

**【調査研究の経過】**

2013年3月～6月：博多港、千葉市稲毛区、大阪府堺市、茨城県鹿島港、熊本県玉名市、岡山県水島港、千葉市千葉港付近、兵庫県神戸港、四日市港および国道23号線沿いセイヨウナタネ採取・検査

6月：農民連食品分析センターにてPCR検査を行う

7月6日：東京・御茶ノ水にて「2013年GMナタネ自生調査全国報告会」

9月9日：参議院議員会館にてGMナタネ自生調査院内学習会

2014年2月13日：参議院議員会館でのメディア懇談会でGMナタネ自生調査報告

**【今後の展望など】**

- ・隠れGMナタネは、GMナタネの自生が進み、多年草化した個体が多く確認される地域に集中していることが昨年の調査からわかってきたので、2014年度の調査は対象地域を、三重県四日市港及び国道23号線沿いおよび福岡市箱崎埠頭周辺に絞る。環境省との共同調査として、簡易キットで陰性と判定した個体を農民連食品分析センターでPCR検査を行う。その結果、陽性と判定した個体を国立環境研究所に送る。国立環境研究所は、免疫クロマトグラフィとPCRを行うとともに原因を解明するために、発現に関する部分の塩基配列を確認する。
- ・10月に韓国で開催される「生物多様性条約／カルタヘナ議定書第7回締約国会議」の開催前に、国内で学習会を開催するとともに、韓国での条約会議でも調査結果を報告し、汚染を防止する国際的ルールを策定を訴える。

会計報告書の概要（金額単位：千円）			充当した資金の内訳		
支出費目	内 訳	支出金額	高木基金の 助成金を充当	他の助成金 等を充当	自己資金
旅費	調査及び報告集会参加費	60	0	0	60
資料費	報告集会資料費	20	0	0	20
機材・備品費	ナタネ検査簡易キット30検体	31	0	0	31
会議費	報告集会会場費	34	0	0	34
印刷費	資料印刷費	20	0	0	20
協力者謝礼など	報告集会講師料	60	0	0	60
外部委託費	PCR検査費用30検体	389	389	0	0
その他	事務作業費	120	11	0	109
合 計		733	400	0	333

**参考文献（ウェブサイトや書籍、成果物など）**

- ・遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーンニュース
- ・2013年度食農市民ネット活動報告集（食と農から生物多様性を考える市民ネットワーク発行）
- ・遺伝子組み換えナタネ汚染（緑風出版）

遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン  
高木基金助成

2013年度調査の報告

# 拡大する遺伝子組み換え ナタネ汚染

## 隠れ遺伝子組み換え(GM)ナタネ及び 交雑種の調査

報告・天笠啓祐

## 遺伝子組み換えナタネの自生 調査とは？

- 現在輸入されている遺伝子組み換え作物は主に4種類(大豆、トウモロコシ、綿、ナタネ)で、いずれも飼料や食用油などの食品になっているが、輸入する形が種子であるため、搬入搬出時や輸送時にこぼれ落ち、自生する。いったん自生すると汚染が拡大する危険性が強まる。
- 特に汚染の拡大の危険性が強いのがナタネで、交雑する植物の種類も多いため、現在はナタネにターゲットを絞って調査している。交雑が想定される「アブラナ科」の作物には、大根、小松菜、ブロッコリー、白菜、菜花など多数あり、すでにブロッコリーとの交雑が確認されている。

# ブロッコリーか

## 三重の空き地ニヨキニヨキ自



え遺伝子を持  
ブロッコリーとみ  
物が、津市内  
で自生してい  
既地調査して  
グループ、週  
受え食品を考  
津市の国道沿いの空  
十株が自生しているの  
しやす環境にある」  
雑は確認

以外の組み換え植物が  
確認されたのは全国で  
初めて。研究者は「国  
内の他の野菜との交雑  
が広がる恐れもある」  
と指摘している。

「この空き地では、遺  
伝子組み換えナタネ約  
十株が自生しているの  
しやす環境にある」  
雑は確認

昌東・四日市大非常勤  
講師（分子生物学）は  
「遺伝子組み換えナタ  
ネは多年草化し、花粉  
を多く飛ばすので交雑  
しやすい環境にある」  
雑は確認

同会メンバーの河田 早めに探  
取らなければならない

直子の三谷疑  
千葉の英国人女性死  
仕事なので協力した  
性が発見、一〇番し  
た。須磨署員が駆け付  
でやせ形

ハタザオガラシとの交雑種





## なぜ汚染は野放しで、規制され れないのか？

- 現在の規制
  - 生物多様性条約・カルタヘナ議定書に基づく
  - カルタヘナ国内(担保)法
- カルタヘナ国内法の問題点
  - 予防原則を「輸入規制に用いる」可能性ありとして制限した
  - 「人の健康」への影響については(考慮という言葉で)はずす
  - 「食品の安全性」は対象外
  - 生物多様性評価の対象から農作物を排除した
  - 昆虫や鳥といった動物の評価を限定、事実上排除した
  - 雑草を守るための法律と揶揄される
  - あらゆる生物への影響評価が大切

# 日本での調査の10年

毎年新たな汚染が確認されてきた

- 2005年 住宅地でもGMナタネが見つかった
- 2006年 ラウンドアップとバスタの両方の除草剤に耐性をもつものが見つかった
- 2007年 多年草化したGMナタネ見つかった
- 2008年 カラシナとの交雑種が見つかった
- 2009年 ブロッコリーとの交雑種が見つかった
- 2010年 雑草ハタザオガラシとの交雑種見つかった
- 2011年 隠れGMナタネ見つかった
- 2012年 汚染地において手が付けられないほど汚染が深刻化
- 2013年 自生地が拡大し、これまでに見つかった都道府県は24になった
- 2014年 検査キットの反応が複雑化(世代交代の進行?)

## 隠れGMナタネの発見と汚染拡大

- 2011年に、一次検査(検査キット)では陰性となしながら、二次検査(PCR検査)では陽性とする試料が見つかり、驚ろいた。(遺伝子は存在するのに形質が発現しないと思われることから「隠れGMナタネ」と名付けた)
- 隠れGMナタネの怖さは、汚染の拡大が潜行するため、気が付かないうちに広がってしまうところにある。
- 隠れGMナタネの汚染の実態と原因究明のため、高木基金の助成を受け調査を始め、2014年度で3年目を迎えた。

# 隠れGMナタネの調査

- 隠れGMナタネについてこれまで分かったこと
- これまで隠れGMナタネが見つかったところは、自生が以前からあり、世代交代を繰り返しているところである。
- 場所や条件を変えながら調査を行ったが、それ以外のところではいまのところ見つかっていない。
- 環境省もこの事実を掌握していることが判明した。
- 市民との共同作業(とくに原因究明について)を依頼、共同作業始まる。

## 環境省との共同調査の概要

- 市民が、汚染のひどいところで一次検査で陰性と出たものを農民連食品分析センターに送付
- 同分析センターで、二次検査を再度行い、陽性と出たものについて、一次検査を再度行う。
- その上で、隠れと確定したものについて、国立環境研究所に送付。
- 国立環境研究所で、再度、隠れかどうかを検査し、隠れと確認したものについてシーケンス解析を行い、DNAの塩基配列を見て、原因を探る。

## 2013年度隠れGMナタネ調査結果

都道府県	地名	検体数	陽性(隠れGMと判定)	
			RR	LL
	(1次検査はすべて陰性)			
茨城県	鹿島港周辺他	5	0	0
千葉県	千葉港周辺他	4	0	0
愛知県	名古屋港埠頭	3	0	0
三重県	津市	11	3	2
三重県	鈴鹿市	2	1	0
三重県	松阪市	2	1	0
大阪府	高槻市他	4	0	0
兵庫県	神戸港周辺	3	0	0
岡山県	玉野市他	4	0	0
熊本県	水俣市	1	0	0
福岡県	箱崎埠頭周辺	9	2	1
福岡県	宗像市他	22	0	0
	計	61	7	3

注)福岡県北九州市で採取された1試料は、アブラナ科ではない可能性が大きい。そのため試料数としては、60とする。

## 調査結果はどのように生かすか？ 国内では？

- 各地での報告会に加えて、全国報告会を開き、調査に参加した市民だけでなく、多くの市民にその実態を知ってもらおう活動を行い、自治体に対策を求め、条例制定を求め、引き抜きなどの活動に生かしていく。
- 議員会館内で報告会を持ち、農水省・環境相の担当者を交え、対策を検討、現在、GMナタネの自生を野放し状態にしている「カルタヘナ国内法」を改正し、規制強化を求める。

# カルタヘナ議定書締約国会議 で報告

- 2012年秋にインドで開催されたMOP6(第6回カルタヘナ議定書締約国会議)の際に開催されたサイドイベントで報告し、地元メディア(ヒンドゥ紙など)に取り上げられるなど、大きな反響があった。

- 韓国政府による汚染調査







- 韓国でのGMナタネ自生

## 第7回カルタヘナ議定書締約国会議、今秋韓国で開催

- 日韓共同でGMナタネ自生調査を開始した。
- 今年は、韓国の平昌でMOP7があり、日韓の市民による共同で報告会を持つ。
- 同時に会期中に原州でシンポジウムとデモを行い、GM作物反対を世界のNGOと共有化していく。

# GMOフリーゾーン世界大会 開催へ

- GMナタネ自生調査は、毎年、ヨーロッパで開かれるGMOフリーゾーン欧州大会で報告してきた。その結果、ドイツやスイスでも調査が始まり、市民運動の武器になっている。
- 今年は初めて、アメリカ大陸やアフリカ大陸からの参加を得て、世界大会が開催されることになったことから、世界の市民に、自生、交雑、隠れGMナタネの問題を提起して、GMO汚染の問題を提起し、世界調査に発展させていきたい。アジアでは、いまGM稲の反対運動が広がっており、そこでも汚染の問題を提起していく。

## 有難うございました

- これまでの調査で大きな成果を上げることができました。
- 今後も引き続き調査を続け、世界からGM作物のなくなることを目指して取り組みます。



香港にて